

(社)日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第 43 回 LLW 処分安全評価分科会 議事録

1. 日時 2022 年 7 月 20 日(水) 13 時 30 分～15 時 30 分

2. 会議形態 Web 会議 (Webex)

3. 出席者 (順不同, 敬称略)

(出席委員) 佐々木 (主査), 山本 (副主査), 竹内 (幹事), 中瀬, 小澤, 坂井, 島田,
菅谷, 杉山, 鈴木, 中居, 宮本, 村松, 山岡 (14 名)

(代理出席委員) 鈴木 (平井委員代理) (1 名)

(出席常時参加者) 関口, 中林, 大石 (3 名)

(欠席委員) 石田, 大浦 (2 名)

(欠席常時参加者) (0 名)

(傍聴者) (0 名)

4. 配付資料

F16SC43-1 議事次第

F16SC43-2 第 42 回 LLW 処分安全評価分科会議事録 (案)

F16SC43-3 人事について

F16SC43-4 倫理教育ご意見・質問、感想

F16SC43-5 標準委員会コメント対応案

F16SC43-6 低レベル放射性廃棄物処分施設の安全評価の実施方法—中深度処分編—:20XX (案)

F16SC43-7 「“低レベル放射性廃棄物処分施設の安全評価の実施方法—中深度処分編—:
20XX” 標準原案に関する標準委員会意見募集の結果及び受け付けた意見への対応について」

<参考資料>

参考資料-1 LLW 処分安全評価分科会関連スケジュール

参考資料-2 SC88-6-10-1_R2 “低レベル放射性廃棄物処分施設の安全評価の実施方法—中深度処分編—:20XX” の概要 (中間報告 (再))

参考資料-3 「“低レベル放射性廃棄物の安全評価の実施方法—中深度処分編—:20XX” 前回中間報告時の意見への対応について」

5. 議事

a) 出席者/資料確認

分科会事務局から, 委員総数 17 名中, 代理出席含め 15 名の出席があり, 分科会の成立要件を満たしている旨報告があり, 引き続き配布資料の確認が行われた。

b) 前回（第 42 回）議事録確認

分科会事務局から、前回議事録である F16SC43-2 については既にメールで各委員に配布しているため、本日中にコメントがなければ学会に送付するとの説明があった。

c) 人事について

分科会事務局から、F16SC43-3 に基づき、1 名の委員の退任及び 1 名の常時参加者退任の報告の後に 1 名の委員選任者が紹介され、分科会審議が行われ分科会にて選任された。また、1 名の常時参加者の登録について主査による確認が行われた。

人事についての詳細は以下のとおり。

1) 委員の退任【報告事項】

平井 輝幸（東京電力ホールディングス株式会社） 2022. 07. 20

2) 委員の選任【決議事項】

鈴木 健介（東京電力ホールディングス株式会社）

3) 常時参加者の登録解除【報告事項】

熊谷 守（日本原燃株式会社） 2022. 07. 20

4) 常時参加者の登録【主査確認事項】

大石 英希（日本原燃株式会社）

d) LLW 処分安全評価分科会関連スケジュール

分科会事務局及び中居委員より、参考資料 1 を用いて LLW 処分安全評価分科会関連スケジュールの説明が行われた。本分科会で標準案について承認が得られた場合、次回専門部会（8/3）で本報告と書面投票、その次の標準委員会（9/14）で本報告を計画している。ただし専門部会でコメントが出た場合や書面投票の結果によっては標準委員会の本報告は 12 月以降になる可能性があること、他の分科会でも標準委員会への本報告については、専門部会本報告の次々回の標準委員会を想定していることの説明があった。また、技術ノートについては現状でいつ公表されるか不明である。

主な質疑を以下に示す。

- ・今回の分科会での決議（専門部会での本報告）では技術ノートをどう扱うことを前提とするのか。技術ノートは公表されても反映しない前提か、それとも公表後に対応を検討するのか。
- 技術ノートは規制基準・審査ガイド等の背景を説明する資料であると考えられるため、参考資料の 1 つとして附属書や解説に引用することが考えられるが、いつ出るか分からないことと、標準本体に大きな変更が必要とも考えられないことから、対応はエディトリアルな変更となると考えられることから、対応した標準案を改めて分科会～標準委員会で報告し、エディトリアルな変更であることを確認したい。
- 基本的にその方向で良い。この標準は技術ノートなしでも十分に体裁が整っているため、技術ノートが公表されても解説に追記程度の対応と考えられる。
- ・公衆審査は公開資料のため、その前に転載許諾を済ませるべき。
- 時期的には今から開始しても構わない。廃炉関係の標準では、公衆審査時に資料の著作権部分

が白紙になっていることがあった。
→拝承。スケジュールを見直す。

e) 倫理教育について

分科会事務局から、事前に各委員・常時参加者に依頼した倫理教育について、委員及び常時参加者合計 20 名中 19 名から受講の連絡が得られ、F16SC43-4 にそのうち 18 名のご意見・質問、感想を記載したことを報告した。

今後報告体裁を確認した上で、事務局から学会事務局に報告を行う。

f) 標準委員会コメント対応

中居委員から、標準委員会意見募集でのコメントと対応をまとめた F16SC43-5 及び、コメント対応の他に標準作成ガイドライン対応、他標準との用語統一を行った標準案の F16SC43-6 を用いてコメント対応の説明が行われた。

主な質疑を以下に示す

・No.12：附属書 P の対応 「バランスのとれた意思決定」のバランスとは何か。合理的な意思決定との違いは何か。

→安全性の追求と工学的・経済的負荷とのバランスを意図したのだが、文章が不十分であったため追記修正する。

・No.3：原子力規制委員会の 2016 年度第 61 回～2021 年度第 35 回は正しいのか。

→同委員会は毎年数十回実施されており、間違いではない。

・標準案の委員会名簿について、旧委員の整合性をとってほしい。F16SC43-6 と F16SC42-3 とで旧委員の記載が異なる。

→拝承。過去何年まで記載する等決まりがあったと思うので、それに従って記載する。

・標準のタイトルで「20XX」の部分で最後にした。これは他の分科会と異なる。他の似た名前の標準（例；－浅地中処分編－）を考えると文末の方が分かり易いと考えた。

→過去の経緯はよくわからないが、現在の考え方で問題ないと思われる。

→埋設後管理標準は 1 つの標準を浅地中と中深度に分けた際に両方のタイトルを大幅に変えたため、20XX は中間に入れた。

→指摘されるまでは現行とする。

・No.8：専門部会の中間報告では注記は入っていたのか。

→入っていた。専門部会の中間報告資料から標準委員会中間報告資料を作成する際に誤って消してしまった。そのため見え消しの資料では残り、最終版資料では抜けていた。

→専門部会・標準委員会の本報告時にその旨を説明する

・本体箇条 4 において、枠内に記載したものがそのまま引用したものと、編集したものが混在してないか。編集している場合には表記を見直す。

→4.1 の枠内は元文献と比較すると編集（要約）されたものである。

→枠に囲ったものはそのまま引用したとみなされやすい。

→枠の中に要約であることを注記する。

・表記についての細かいコメントを別途送付する。

→「有する」「組み合わせ」については引用部分に多用されていることからそちらに合わせた。

g) 専門部会対応

中居委員から専門部会での説明用資料案である F16SC43-7 及び参考資料-3 に関する説明が行われた。

主な質疑を以下に示す

・資料の解説表の項目は何か参考にしたものはあるのか。

→あまり参考になるものが無かったので、新たに作成した。

h) 専門委員会で本報告を行う件についての決議

WEB 上での決議の結果，代理出席者を含む出席委員 15 名の全員賛成で決議された。

i) 次回分科会等

次回分科会は，10月5日（水）13：30～15：30 を候補とする。

また、各委員に以下の依頼があった。

・耐震重要度評価の事例を過去に JAEA 殿に紹介頂いたが、他に事例がないかと専門部会長の質問があった。もしも他に事例があったら連絡して欲しい。

→六ヶ所 3 号埋設施設の安全審査は把握しているか。

→3 号の耐震については承知している。

以 上